

「現役世代のための『まなぶ！連続講座』」第3回講義予告
7月23日(土)13時30分～ 場所：まなびあむ3階視聴覚室

人間が持つ非合理的な一面に着目した行動経済学は、これから誰もが仕事や生活に役立てられる可能性がある

テーマ：社会人のための行動経済学 (ナッジ理論等) 入門

講師：立命館大学総合心理学部
准教授 森 知晴 先生

森知晴先生から受講者の皆さんへメッセージをいただきました。

みなさんこんにちは。森知晴と申します。
行動経済学では、人間がうまく判断・決定
ができない場面にフォーカスを当てます。
そして、そのような場面に、自分でどう対
処できるのか、あるいは他者の立場からど
のように支援できるのか(ナッジ)を考え
ます。
ぜひ一緒に学びましょう！



講師プロフィール

一橋大学商学部卒、大阪大学大学院経済学研究科修了。2017年4月から現職。
専門：行動経済学、実験経済学、労働経済学、公共経済学。研究の手法として経済実験を中心
に、実証分析やフィールド実験も探求。最近の研究では、労働生産性と税金・社会保険の関係
について、経済実験を用いて研究。
著書：『日本の労働市場 経済学者の視点』(共著、2017)、『最低賃金改革：日本の働き方をい
かに変えるか』(共著、2013)
論文：「行動経済学が労働研究に与える影響」(2020)、「インターネットを利用した『経済実
験』の動向と展望」(2019)、「最低賃金の決定過程と地域間格差の考察(2019)」外
最近の記事：「実験で考える労働生産性」(日本経済新聞「やさしい経済学」連載、2022年5
月17日～5月30日)

受講のお申し込みは、7月22日(金)までにまなびあむへお電話(64-4060)ください。
森先生にご質問などがある場合は、6月30日(木)までにまなびあむへお寄せください。